

北海道・東北社会人アメリカンフットボール王座決定戦「第9回 絆ボウル」 Game Report

	1Q	2Q	3Q	4Q	TOTAL
仙台ブラックボルツ	0	0	0	0	0
札幌ベンガルズ	0	6	3	0	9

前年度の絆ボウル覇者、仙台ブラックボルツは本拠地宮城で連覇を果たすため、札幌ベンガルズを迎え撃つ。一方、昨年度北海道リーグ優勝をクルムスィーグルスにさらわれ、今年度は雪辱に燃えるベンガルズ。

コイントスはベンガルズが前半をチョイス。まずは運命の女神はベンガルズに微笑む。天候が雨のためかベンガルズはランメインのオフェンス。ベンガルズ#26栗生澤が次々と攻め上り、レッドゾーンまで進む。ベンガルズはここでタイムアウトを取り、万全の態勢で先制点に臨んだかに見えたが、ベンガルズ#7 柴田がまさかのファンブル。シーズン中は最悪の天候でも見られなかったミス。ベンガルズの優勝に暗雲が立ち込める。しかし、ベンガルズ崩れずしっかりとブラックボルツオフェンスを止める。一方のブラックボルツはベンガルズのランプレイをなかなか一度のタックルで仕留めきれない。

第2Q、前半は一度のチャンスを逃したベンガルズが堅実なランプレイで先制点を得る。先制点を取られ、オフェンスも思うようにいかないブラックボルツ。苦しい展開となったがパンターの見事なパントもあってベンガルズに得点を許さない。ベンガルズも流れに乗り切れず反則が続ぎ、FGにトライするがこれを外している。

6点差で迎えた後半。追うブラックボルツだが、ファンブルから攻撃権を失ってしまう。続くベンガルズの攻撃を防ぎ、ブラックボルツはパスオフェンスに出る。何度か成功するものの、ベンガルズインターセプトからFGに繋げ、追加点を得る。ブラックボルツはその後ブラックボルツ#7池田のランやパスにより大きく進むことがあるが、ラン攻撃は単発で終わり、パス攻撃は最終的にインターセプトという悪循環。ブラックボルツはうまく攻撃を展開できず、そのまま試合終了となった。

雨という条件も関係してかベンガルズはパスオフェンスを全く行わず、ブラックボルツは投げるがインターセプト。その結果ロースコアな試合結果となった。またベンガルズは多くの罰退の影響もあり得点にはなかなかつながらなかった。結果、地味な試合展開で淡々と進んだという印象が否めない。しかしながら、アウェーかつ、行きの飛行機でトラブルがあり5時間空港に足止めを食らい、悪天候にも負けずに戦ったベンガルズ。前年度優勝し地元でも開催という二重のプレッシャーを背負って戦ったブラックボルツ。両者の健闘には敬意を表したいと思う。

